

# 全般季節予報支援資料 1か月予報

2024年11月28日

予報期間：11月30日～12月29日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

## 特に注意を要する事項

東・西日本と沖縄・奄美では、期間の前半は、気温の変動が大きいです。

## 出現の可能性が最も大きい天候

北日本日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が多いでしょう。  
東日本日本海側では、平年に比べ曇りや雨または雪の日が多いでしょう。  
西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。  
北日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。  
東・西日本太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。  
沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

# 全般1か月予報

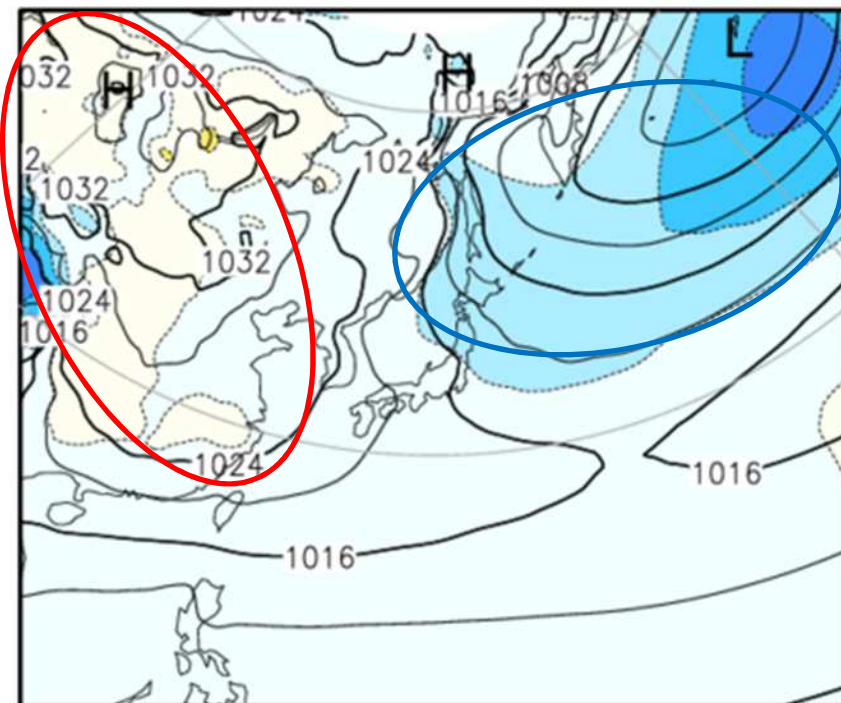
1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低並高	少並多	少並多	少並多
北日本	日本海側	30:30:40	20:40:40	40:40:20	20:40:40
	太平洋側		40:40:20	30:30:40	
東日本	日本海側	40:30:30	20:40:40	40:40:20	20:40:40
	太平洋側		40:40:20	20:40:40	
西日本	日本海側	40:30:30	30:30:40	40:30:30	
	太平洋側		40:40:20	20:40:40	
沖縄・奄美		40:30:30	40:30:30	30:40:30	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3~4週目(%)
	低並高	低並高	低並高
北日本	10:40:50	30:50:20	40:30:30
東日本	20:30:50	40:40:20	40:30:30
西日本	20:30:50	40:40:20	40:30:30
沖縄・奄美	20:30:50	40:40:20	40:30:30

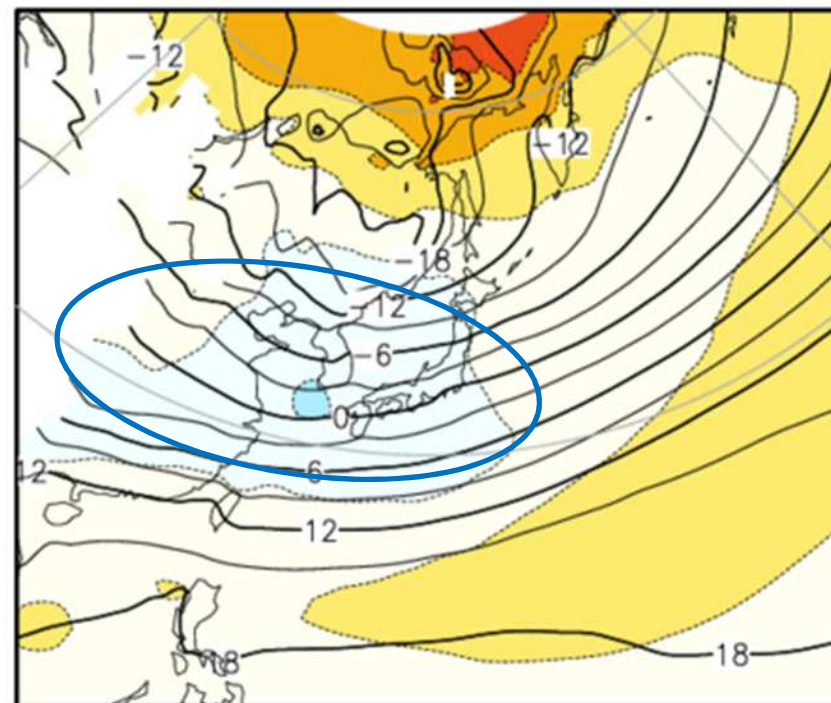
## 全般予報のポイント

- ・向こう1か月の気温は、全国的にほぼ平年並ですが、寒気の影響を受ける時期もあり、期間の前半は東・西日本と沖縄・奄美では気温の変動が大きいでしょう。
- ・北・東日本日本海側では、低気圧や寒気の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。
- ・低気圧の影響を受けにくいいため、向こう1か月の降水量は北・東・西日本太平洋側では平年並か少なく、日照時間は東・西日本太平洋側では平年並か多いでしょう。
- ・向こう1か月の降雪量は、北・東日本日本海側では、寒気の影響を受けやすい時期があるため、平年並か多いでしょう。

## 海面気圧(1か月)



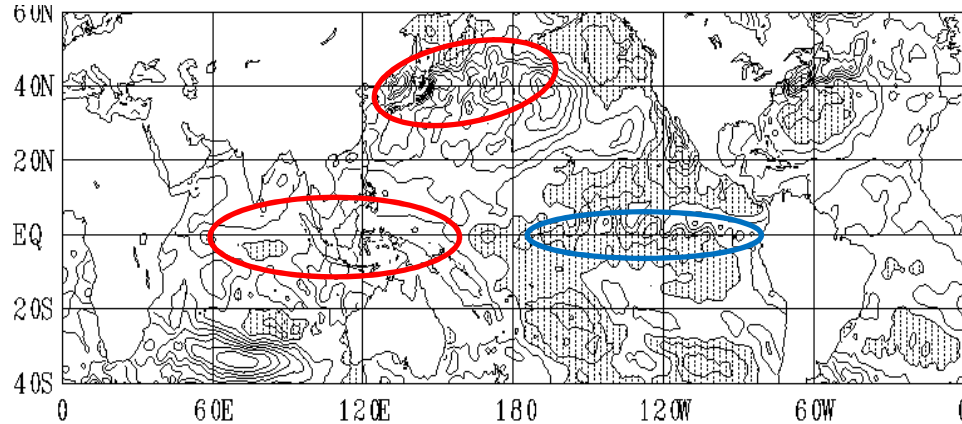
## 上空約1500mの気温(1か月)



1か月平均の海面気圧(左図)は、北日本から日本のはるか東で平年より低く、北日本日本海側を中心に低気圧の影響を受けやすい時期があるでしょう。一方、大陸では平年より高く、日本付近では冬型の気圧配置が強まる時期もあるでしょう。

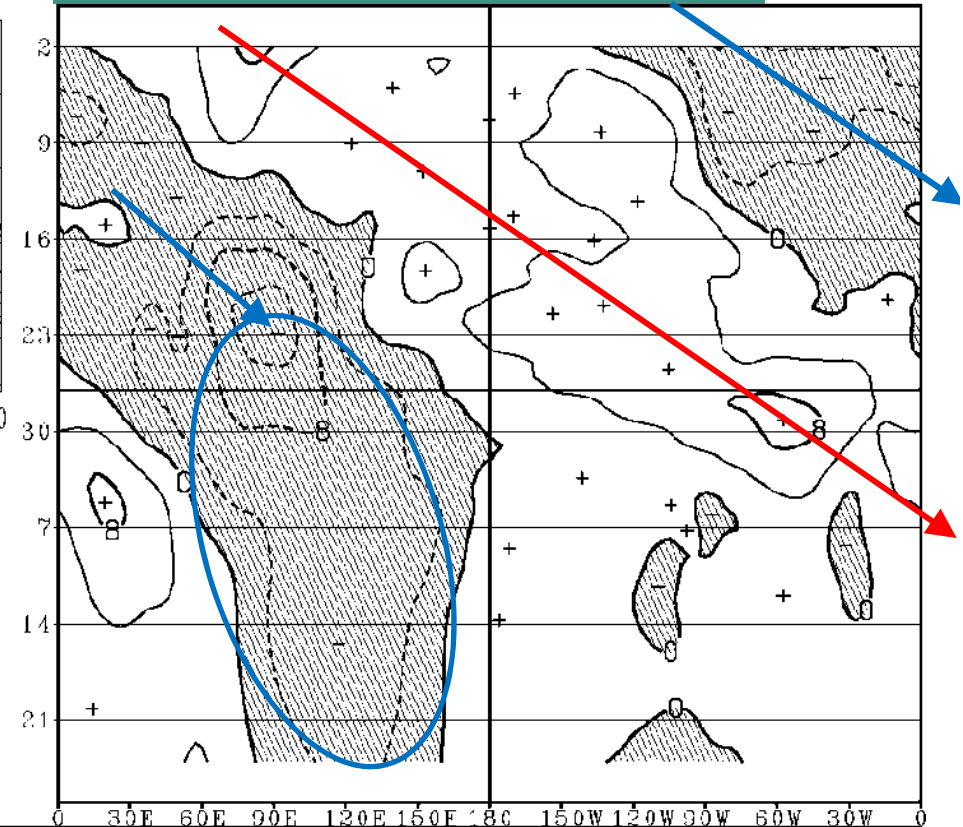
上空約1500mの気温(右図)は、日本付近では平年より低く、寒気の影響を受けやすい時期がある見込みです。

## SST偏差



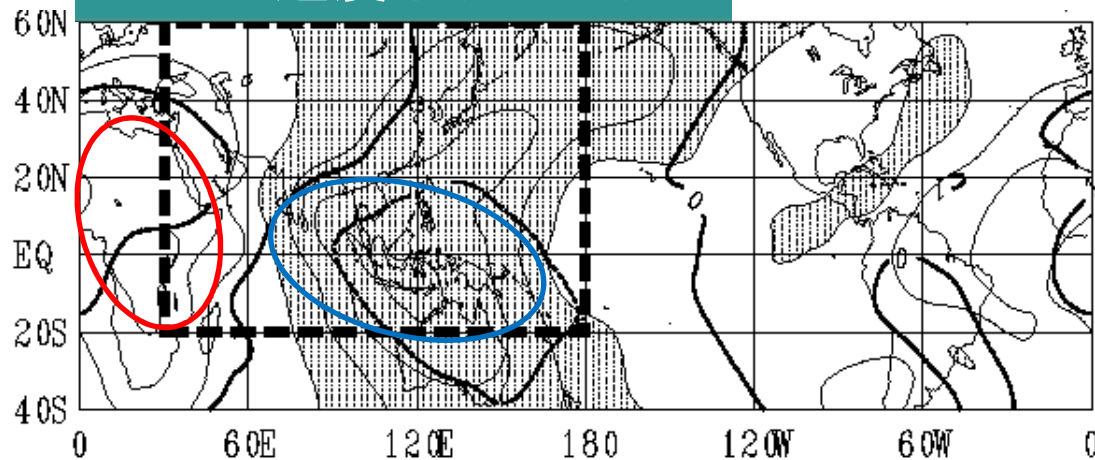
熱帯域では、インド洋から太平洋西部にかけて正偏差、太平洋赤道域中部から東部にかけて負偏差。日本周辺海域や日本の東で正偏差。

## 200hPa速度ポテンシャル偏差



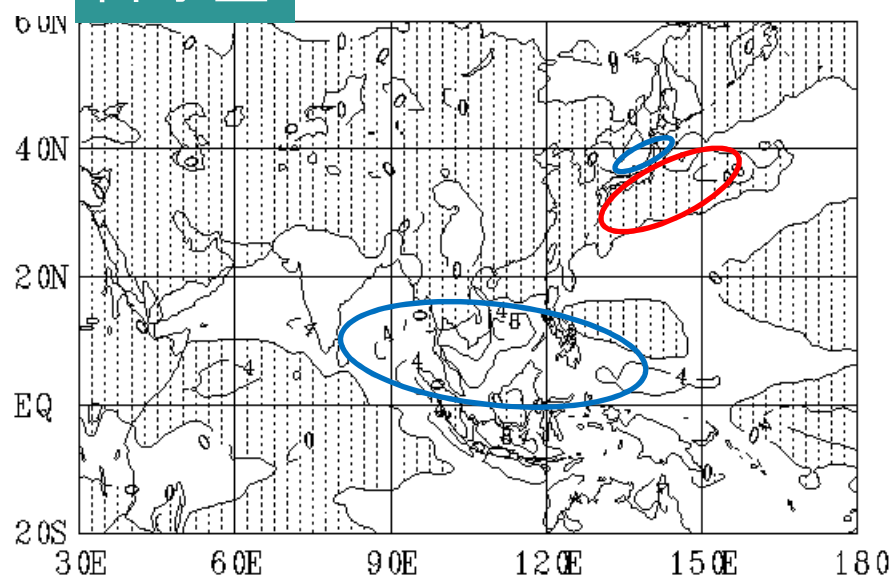
実況では、インド洋西部からインドネシア付近にかけて対流活発で、インド洋東部で特に活発となっている。一方、太平洋から大西洋にかけて対流不活発。期間前半にかけてアフリカで対流不活発となるが、インド洋東部からインドネシア付近にかけて対流活発となる。

## 200hPa速度ポテンシャル



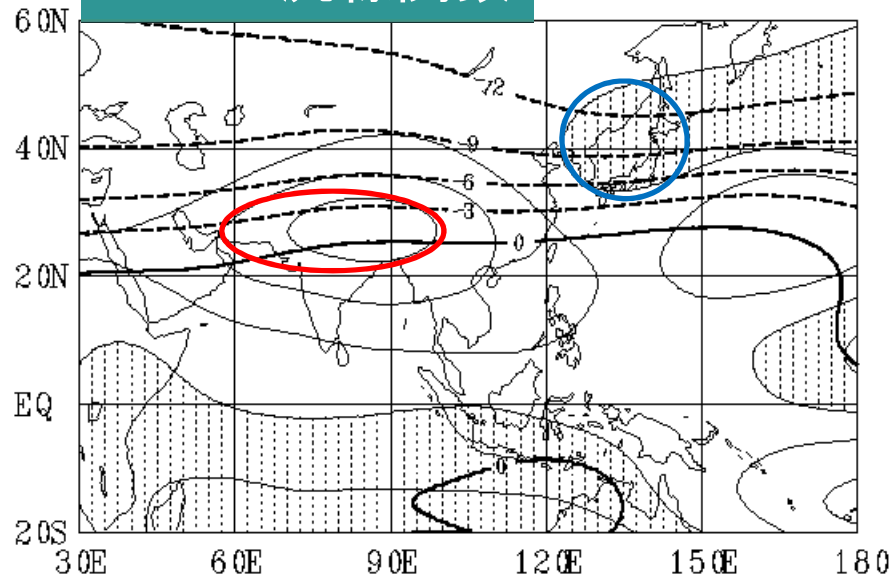
インドネシア付近で上層発散  
偏差。  
アフリカ大陸付近で上層収束  
偏差。

## 降水量



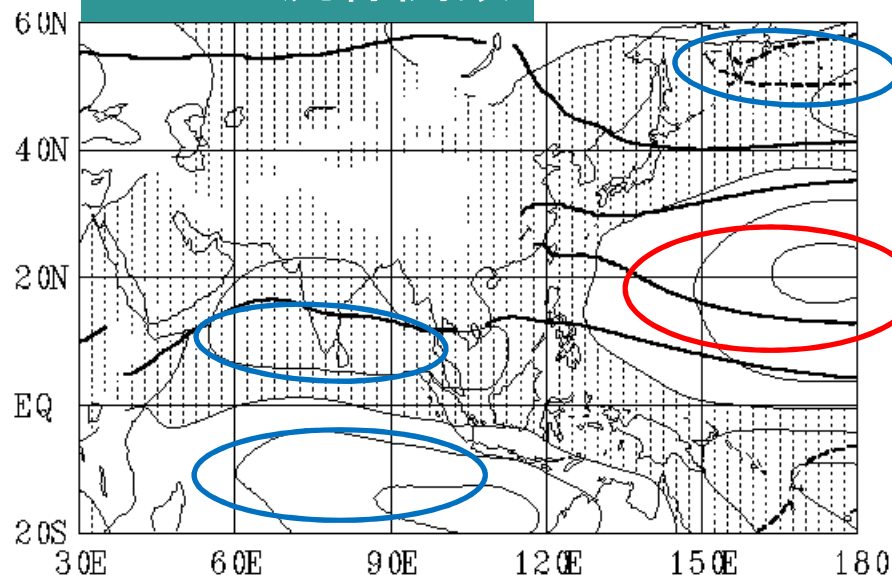
インド洋東部からインドネシア  
付近にかけて多雨偏差。  
日本付近では、日本海側で多  
雨偏差だが、太平洋側では少  
雨偏差。

## 200hPa流線関数



インド付近から中国南部にかけて高気圧性循環偏差、その東の日本付近で低気圧性循環偏差。この偏差パターン形成には、熱帯の対流活動の影響がある。

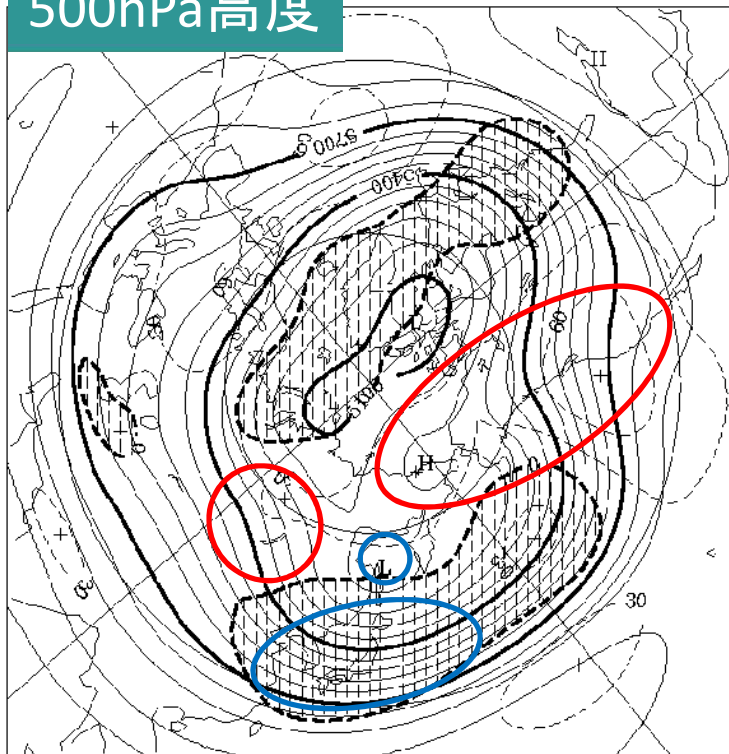
## 850hPa流線関数



インド洋東部からインドネシア付近の対流活発の影響でインド洋では南北対の低気圧性循環偏差。オホーツク海付近には低気圧性循環偏差。一方、北西太平洋熱帯域で高気圧性循環偏差。

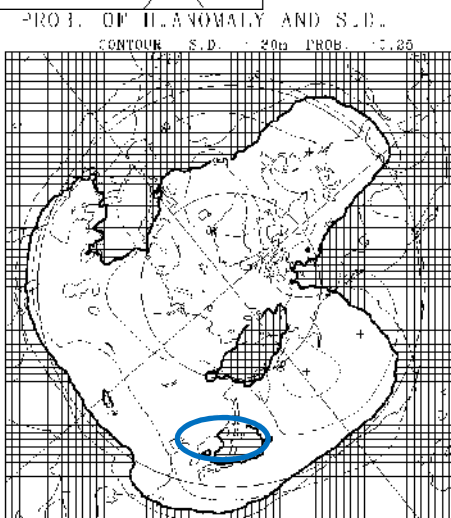
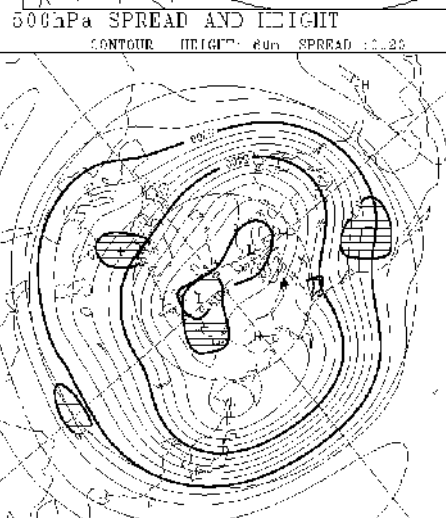


## 500hPa高度

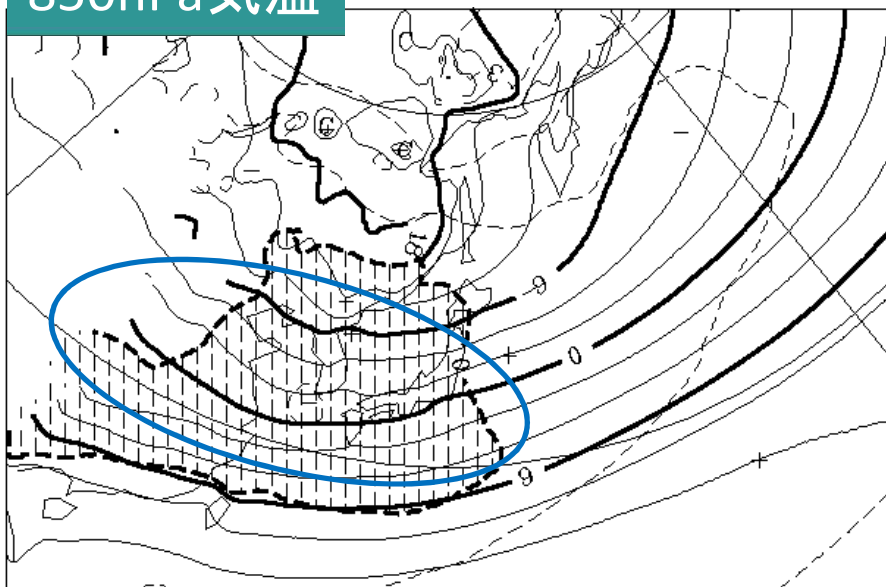


北半球では、バイカル湖付近と東シベリア付近でリッジ、オホーツク海付近に寒冷渦があって日本付近はトラフ。

日本付近は、北日本を中心に負の高偏差確率50%以上の領域に覆われている。

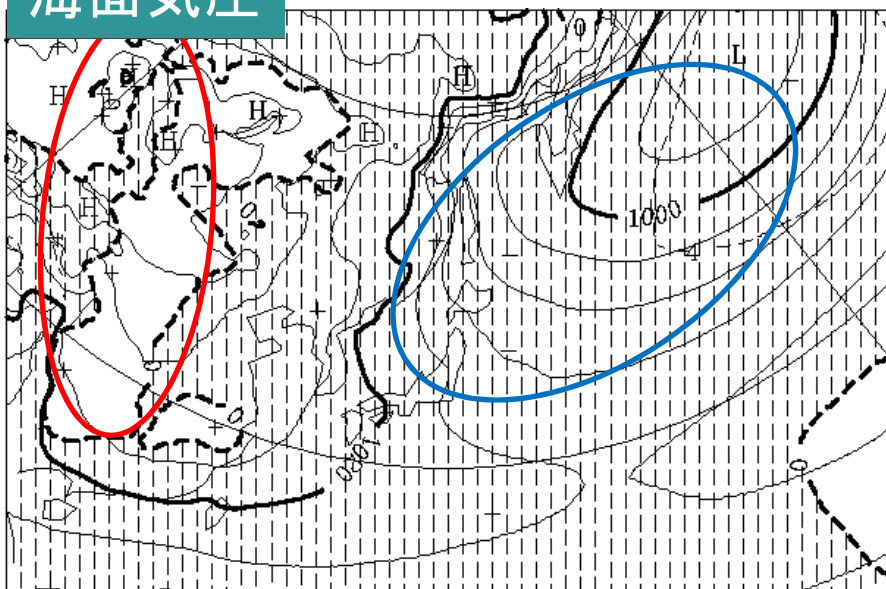


## 850hPa気温



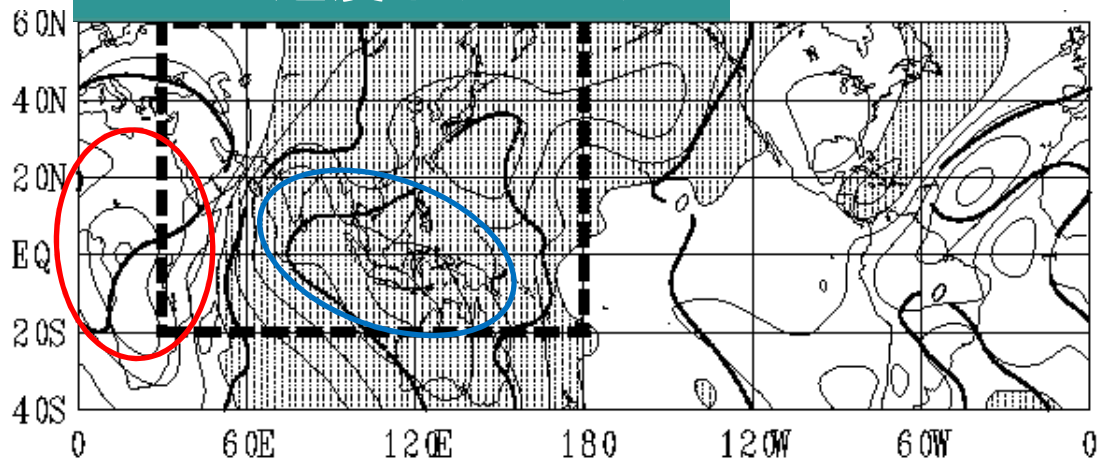
日本付近は広範囲に負偏差で、寒気の影響を受けやすい時期がある。

## 海面気圧



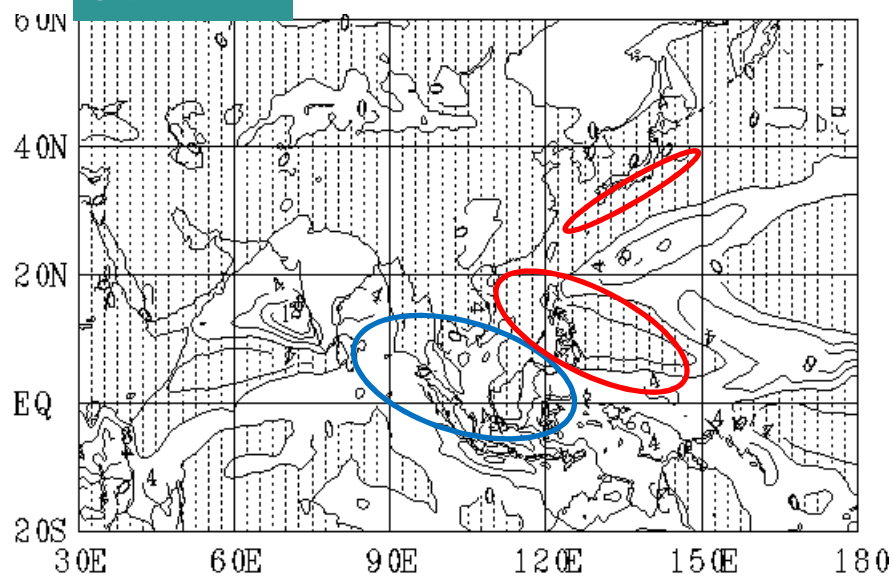
日本付近から日本のはるか東で平年より低い一方、大陸では平年より高く、日本付近では冬型の気圧配置が強まる時期がある。また、北日本では低気圧の影響を受けやすい時期がある。

## 200hPa速度ポテンシャル



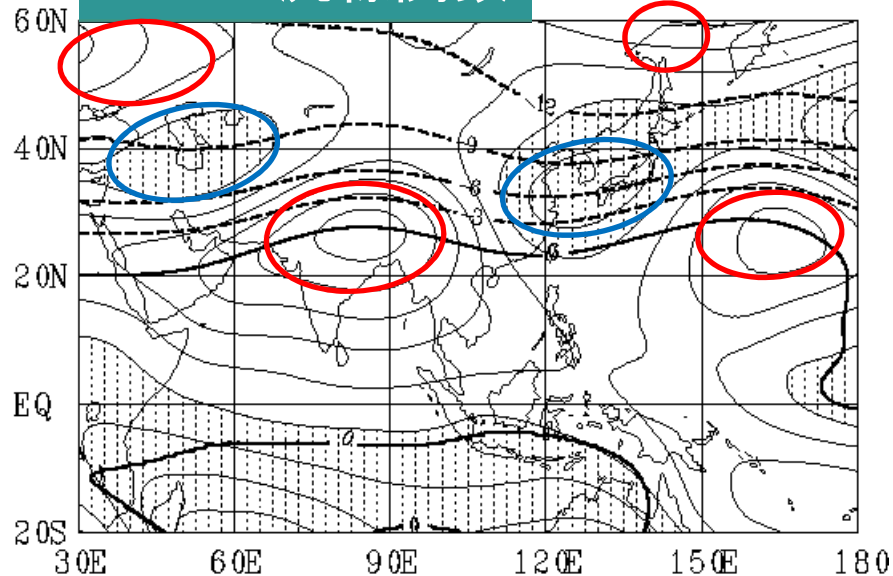
インド洋からインドネシア付近で上層発散偏差。  
アフリカ大陸付近で上層収束偏差。

## 降水量



インド洋からインドネシア付近にかけてと日本の南で多雨偏差。一方、日本付近では太平洋側を中心に少雨偏差。フィリピン付近でも少雨偏差。

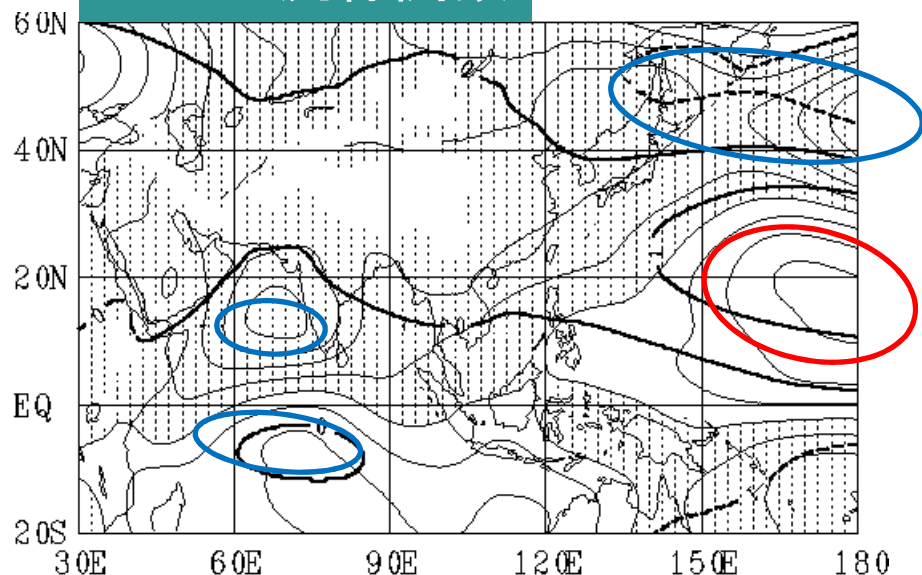
## 200hPa流線関数



中緯度帯には波列パターンが見られ、ユーラシア大陸南部に高気圧性循環偏差、日本付近では低気圧性循環偏差。

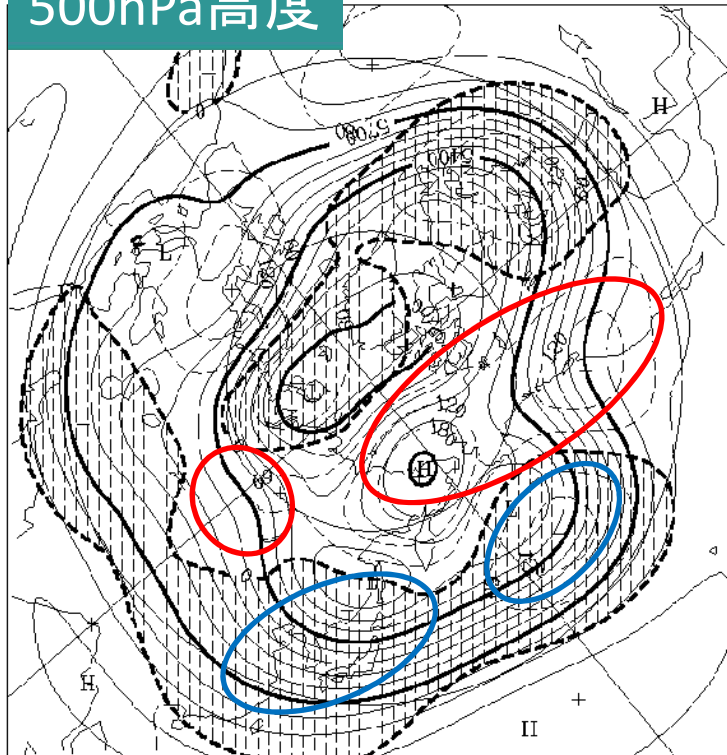
ユーラシア大陸南部付近の高気圧性循環偏差には、インド洋からインドネシア付近の対流活発の影響もあると考えられる。

## 850hPa流線関数

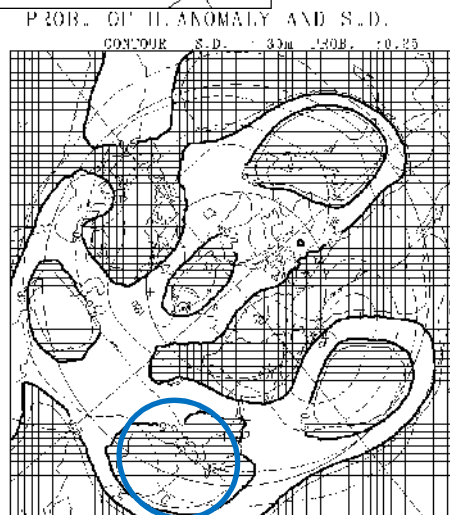
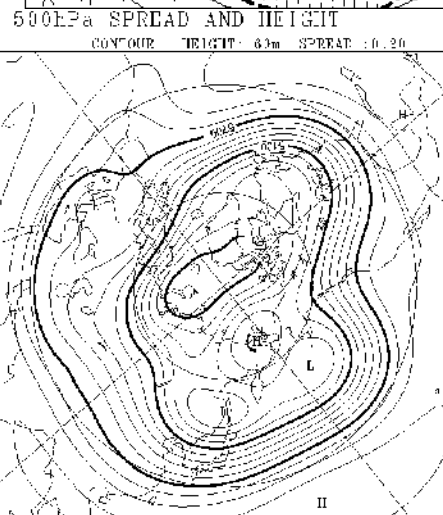


北西太平洋熱帯域では、高気圧性循環偏差。一方、日本の東から日本のはるか東では低気圧性循環偏差で、低気圧の発達によるもの。また、インド洋からインドネシア付近の対流活発の影響で、南北対の低気圧性循環偏差。

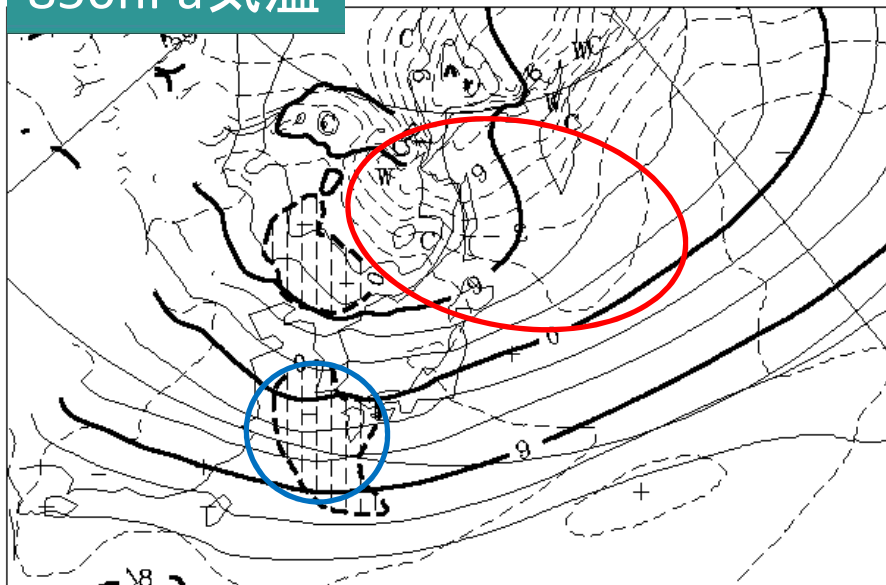
## 500hPa高度



北半球では、波列パターンが明瞭。北半球では、バイカル湖の西と東シベリア付近でリッジ、オホーツク海付近に寒冷渦があって日本付近はトラフ。  
華北から日本付近では負偏差。  
また、華北から日本付近にかけて広範囲に負の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。

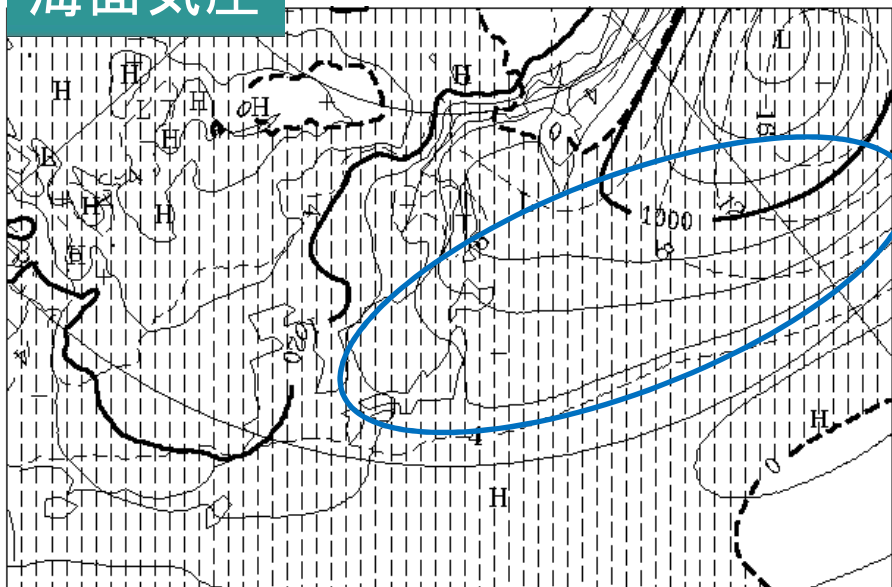


## 850hPa気温



西日本を中心に負偏差に覆われるが、平年との隔たりは小さい。

## 海面気圧



アリューシャン低気圧の南西側にあたる、日本付近から日本のはるか東にかけて負偏差。一方、バイカル湖付近では正偏差だが、中国東北区付近から東は負偏差で、大陸からの高気圧の張り出しは弱いものの、日本付近では、北日本日本海側を中心に低気圧の影響を受けやすく、低気圧の通過後は冬型の気圧配置が強まる。

## 想定される天候

北日本日本海側では、低気圧の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雪または雨の日が多いでしょう。

北日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

東日本日本海側では、冬型の気圧配置となりやすいため、平年に比べ曇りや雨または雪の日が多いでしょう。

西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。

東・西日本太平洋側では、低気圧の影響を受けにくいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

沖縄・奄美では、低気圧の影響を受けにくいため、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

### <気温>

・全国的に寒気の影響を受けにくい時期があるため、高温。

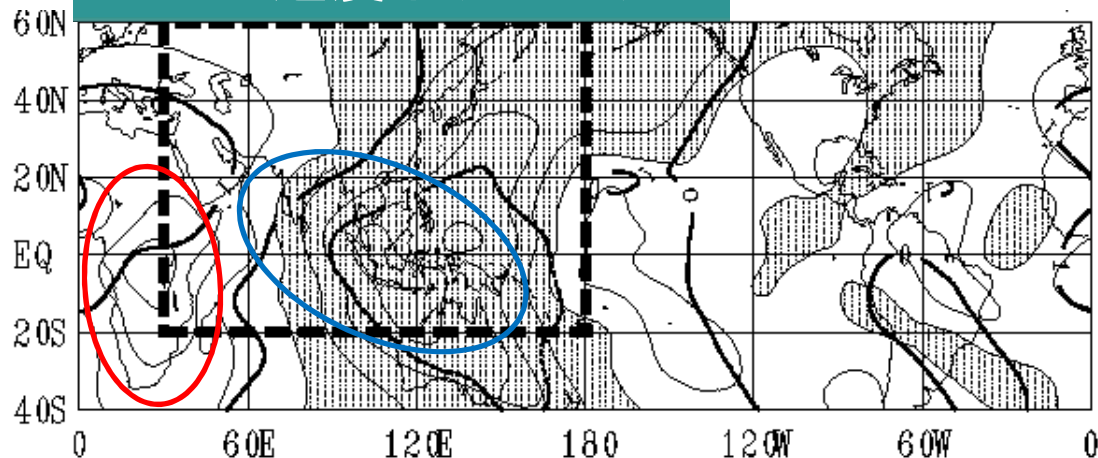
### <天候>

・北・東日本日本海側では、冬型の気圧配置となりやすいため、多雨・寡照傾向。一方、北日本太平洋側では、低気圧の影響を受けにくいため、少雨傾向・並照。

・西日本日本海側では、低気圧の影響を受けにくいため、少雨傾向・並照。

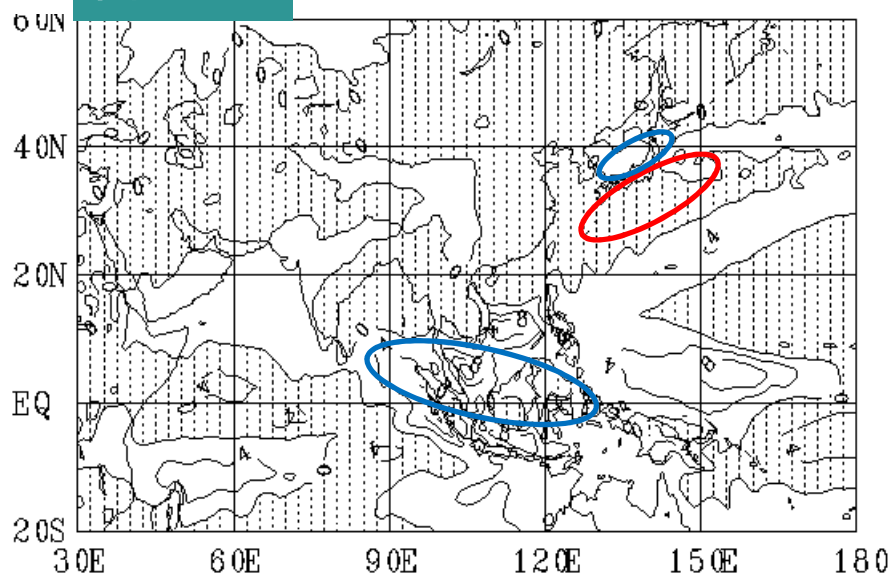
・東・西日本太平洋側と沖縄・奄美では、低気圧の影響を受けにくいため、少雨・多照傾向。

## 200hPa速度ポテンシャル



インド洋東部からインドネシア付近では上層発散偏差。  
アフリカ大陸付近では上層収束偏差。

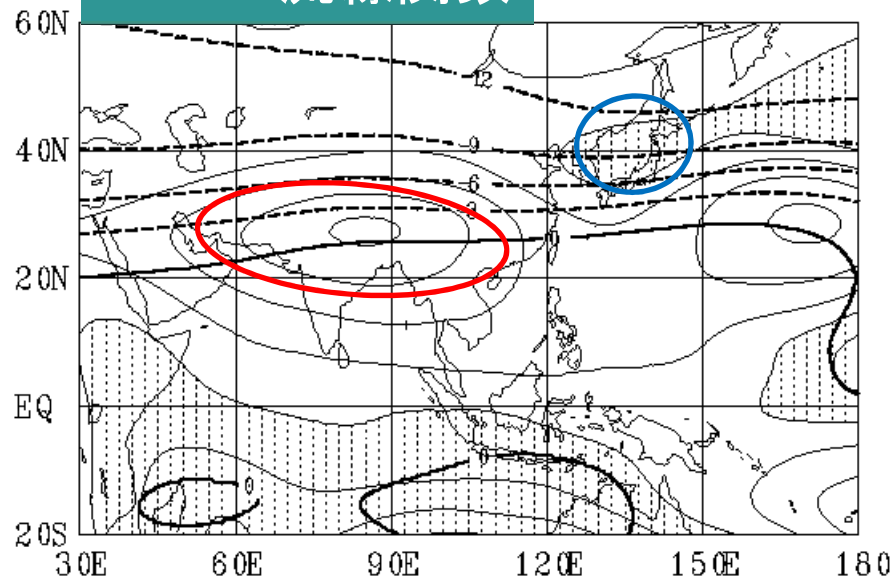
## 降水量



インド洋東部からインドネシア付近にかけて多雨偏差。  
日本付近では、日本海側では多雨偏差だが太平洋側では少雨偏差。

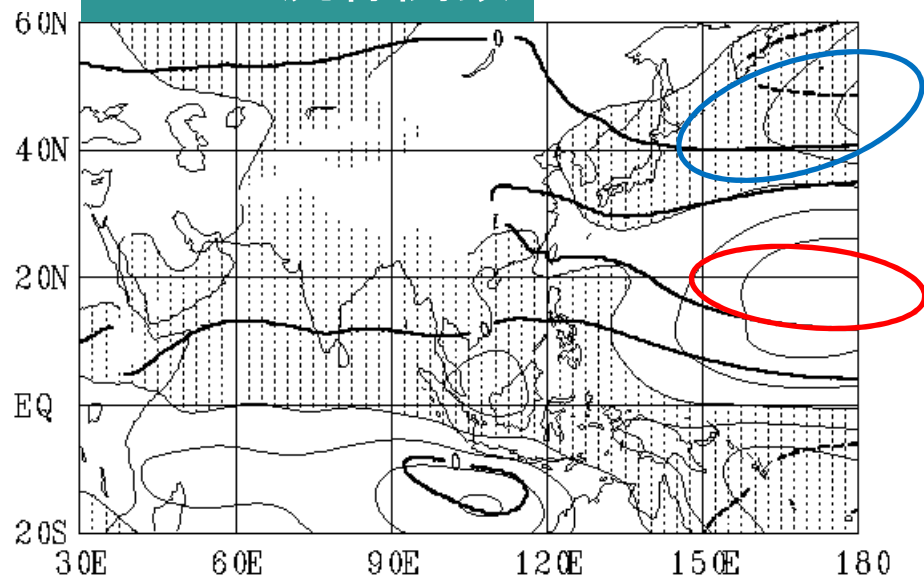


## 200hPa流線関数



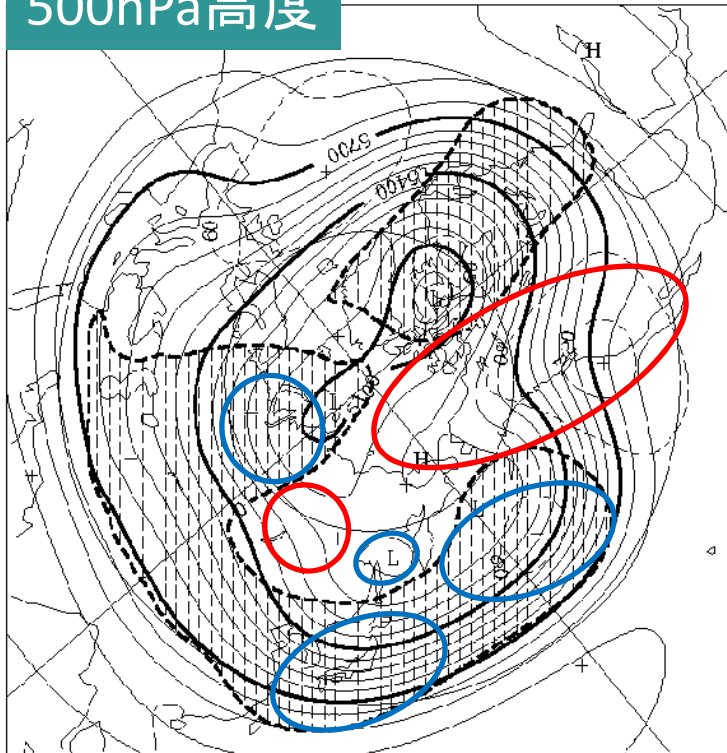
ユーラシア大陸南部付近に高気圧性循環偏差。日本付近では低気圧性循環偏差。

## 850hPa流線関数



北西太平洋熱帯域では低気圧性循環偏差があるほか、南東海上には高気圧性循環偏差。

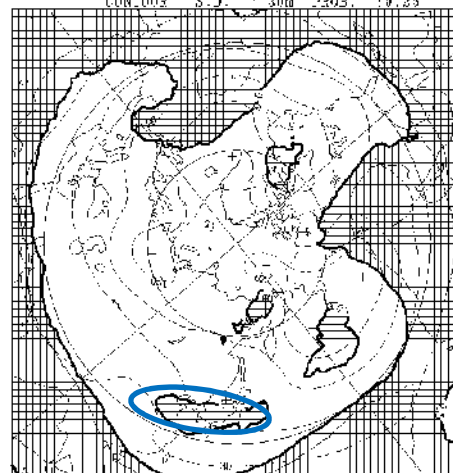
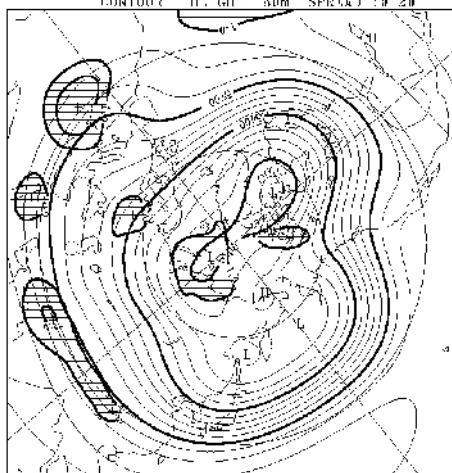
## 500hPa高度



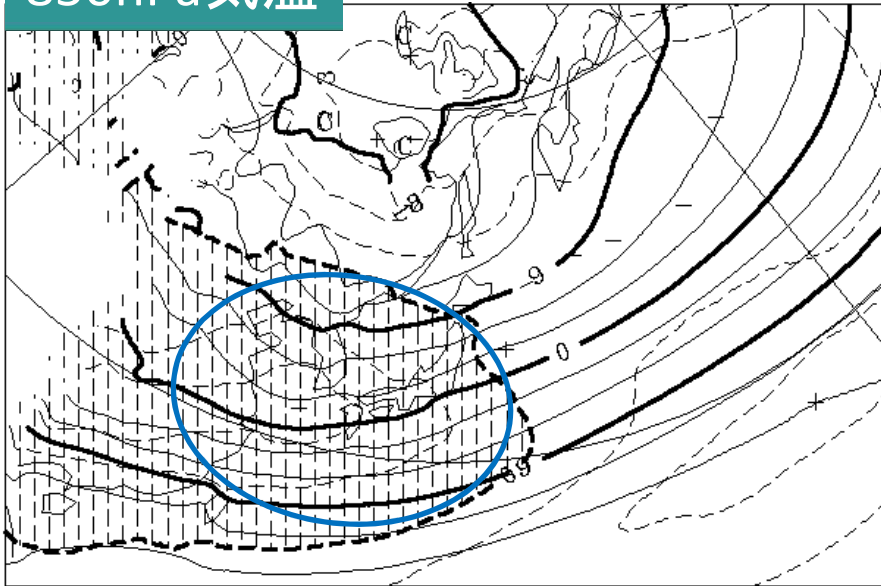
北半球では、バイカル湖付近と東シベリア付近でリッジ、オホーツク海付近に寒冷渦があって日本付近はトラフ。  
日本付近では、負の高偏差確率に覆われている。

500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.



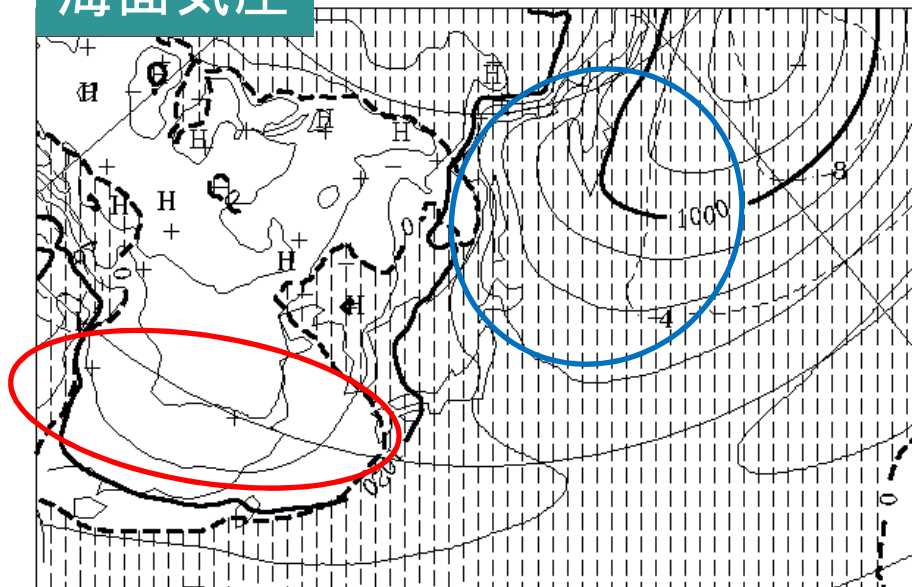
## 850hPa気温



西日本を中心に負偏差に覆われる。

華北から東シナ海にかけて正偏差。  
アリューシャン低気圧は日本の東で強いほか、大陸の高気圧の南東への張り出しが強く、冬型の気圧配置が強まる時期もある。

## 海面気圧



東・西日本日本海側では、寒気の影響を受けやすい。一方、東・西日本太平洋側では、南岸低気圧の影響を受けにくい。

### 想定される天候

北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。  
東・西日本日本海側では、平年に比べ曇りや雨または雪の日が多いでしょう。  
北日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。  
東・西日本太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。  
沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

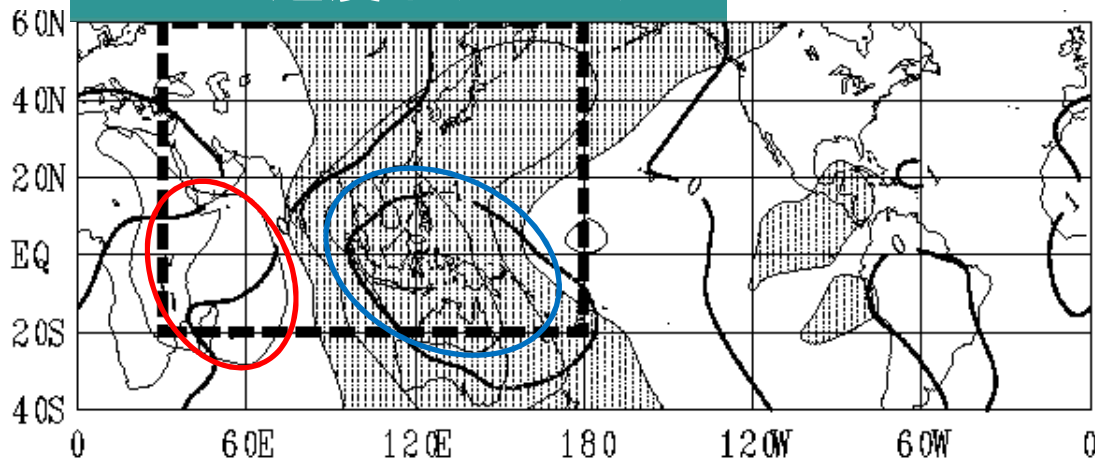
#### <気温>

東・西日本と沖縄・奄美では寒気の影響を受けやすく低温傾向、北日本は並温。

#### <天候>

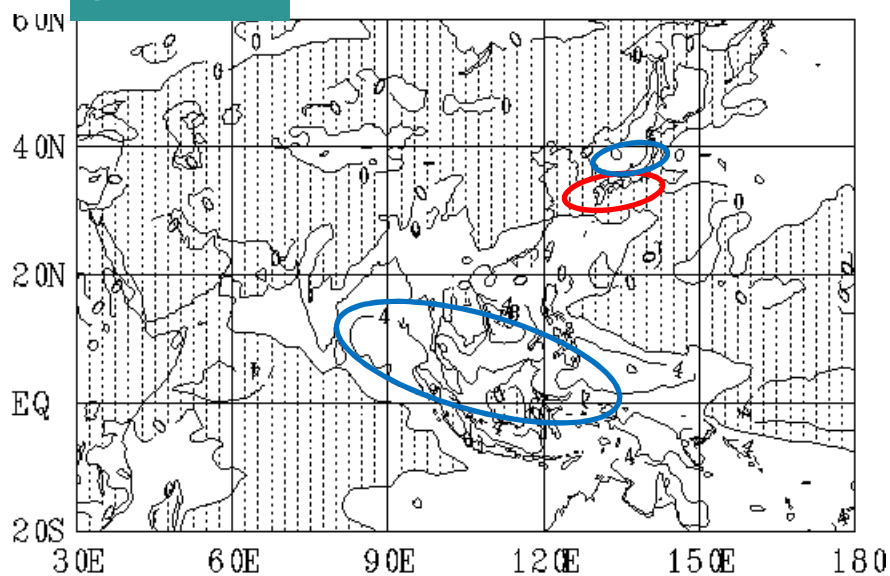
- ・北日本日本海側では、低気圧や寒気の影響をやや受けやすいため、やや多雨・やや寡照。
- ・北日本太平洋側では、低気圧の影響をやや受けにくいため、やや少雨やや多照。
- ・東・西日本日本海側では寒気の影響を受けやすいため、多雨・寡照傾向。
- ・東・西日本太平洋側では、低気圧の影響を受けにくく、少雨・多照傾向
- ・沖縄・奄美では、寒気の影響を受けやすいため、やや少雨・やや寡照。

## 200hPa速度ポテンシャル



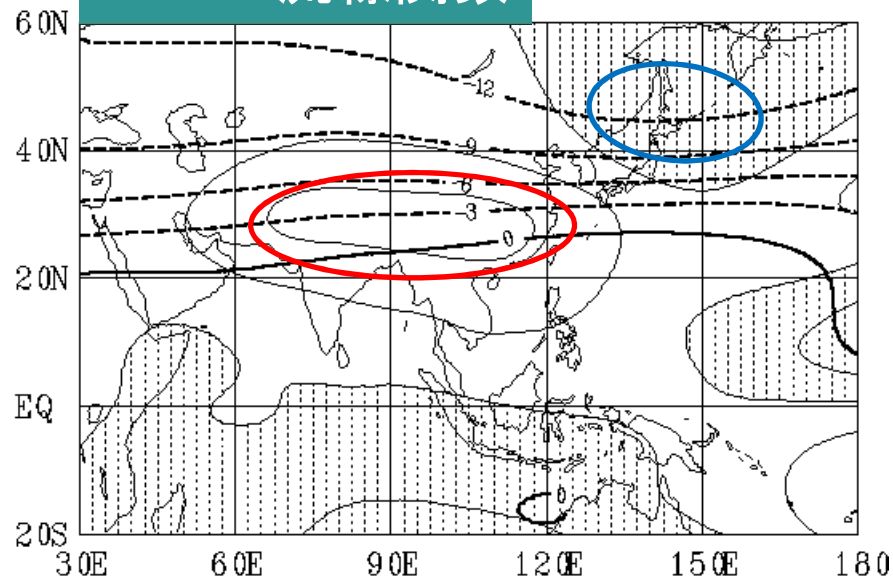
インドネシア付近を中心に上層発散偏差。  
アフリカ大陸付近で上層収束偏差。

## 降水量



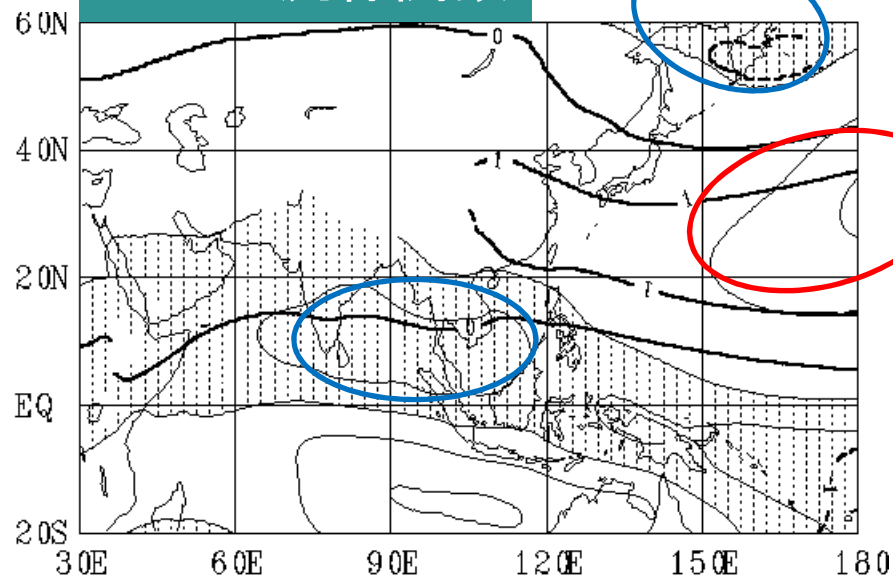
インド洋東部からインドネシア付近にかけて多雨偏差。  
日本付近では、東・西日本日本海側では多雨偏差で東・西日本太平洋側を中心に少雨偏差。

## 200hPa流線関数



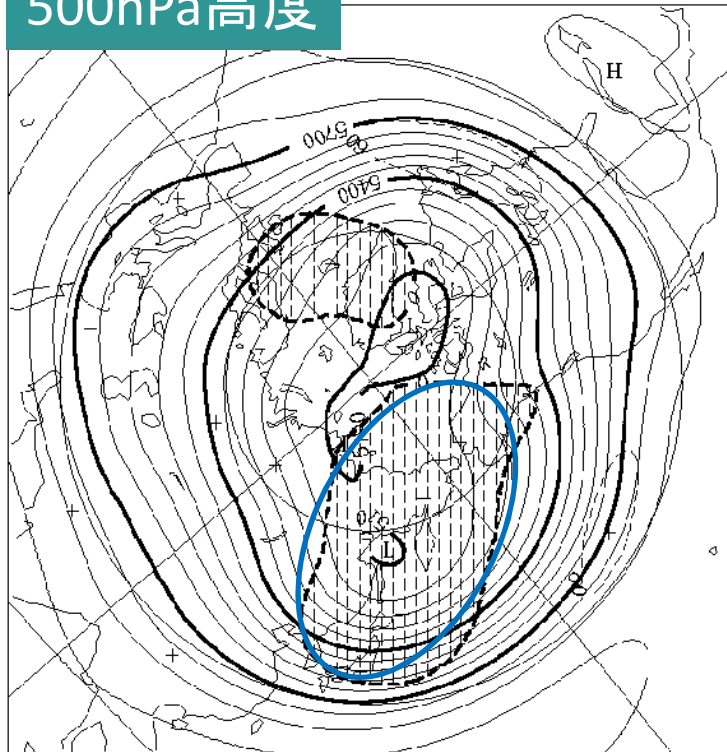
北日本付近に低気圧性循環偏差。ユーラシア大陸南部付近の高気圧性循環偏差には、インドネシア付近の対流活発の影響もあると考えられる。

## 850hPa流線関数



カムチャツカ半島付近に低気圧性循環偏差があるほか、インド洋北部から南シナ海では低気圧性循環偏差、日本の南東付近に高気圧性循環偏差。

## 500hPa高度

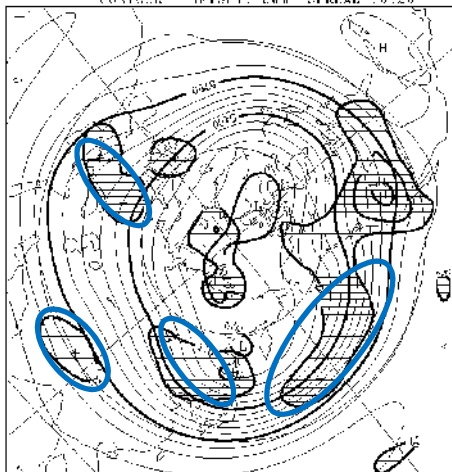


オホーツク海付近を中心に寒冷渦があって日本付近はトラフ。

ただし、アリューシャン近海付近や大陸などでスプレッドの大きい領域が予想され、中緯度帯の波列パターンなどの予測に不確実性がある。

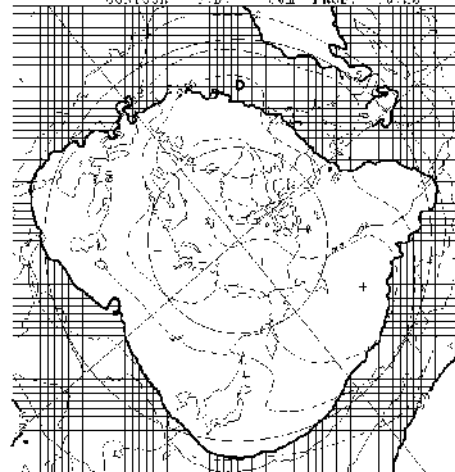
500hPa SPREAD AND HEIGHT

CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.20

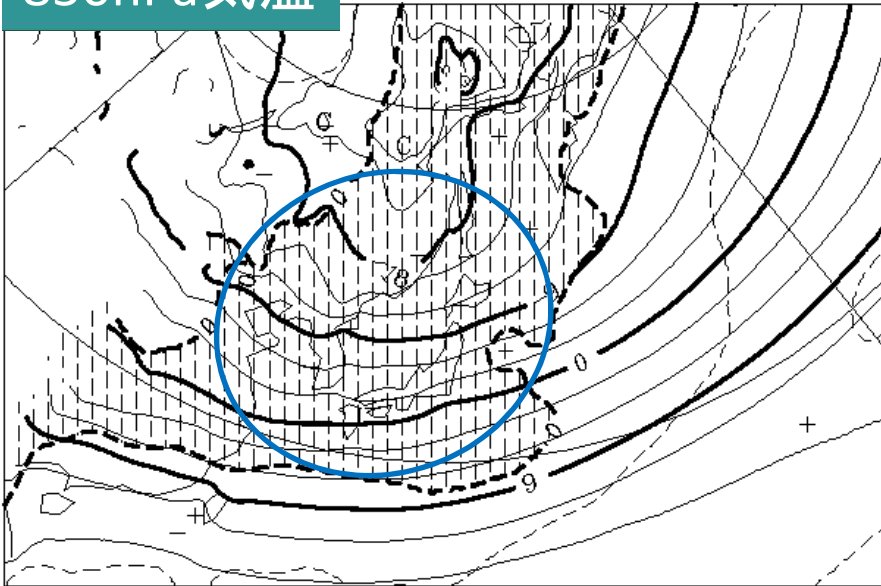


PROB. OF T. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR S.D.: 20m PROB.: 0.25

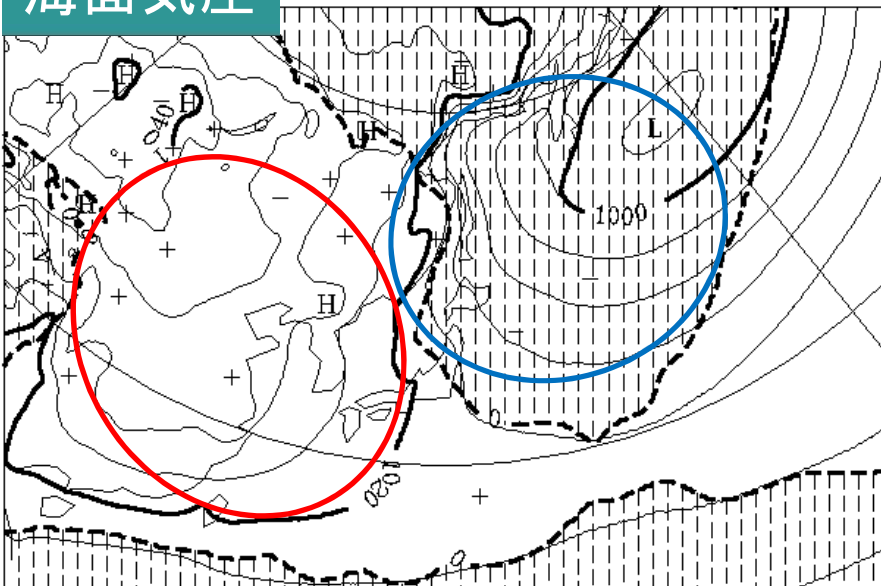


## 850hPa気温



日本付近は、広範囲に負偏差。

## 海面気圧



アリューシャン低気圧の南西側で負偏差で、日本付近も北日本では負偏差。一方、大陸の高気圧は正偏差で、日本付近への張り出しは強く、冬型の気圧配置となりやすい。



## 想定される天候

北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。  
東・西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。  
北・東・西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。  
沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

### <気温>

・全国的に、寒気の影響を受ける可能性もあり、やや低温。

### <天候>

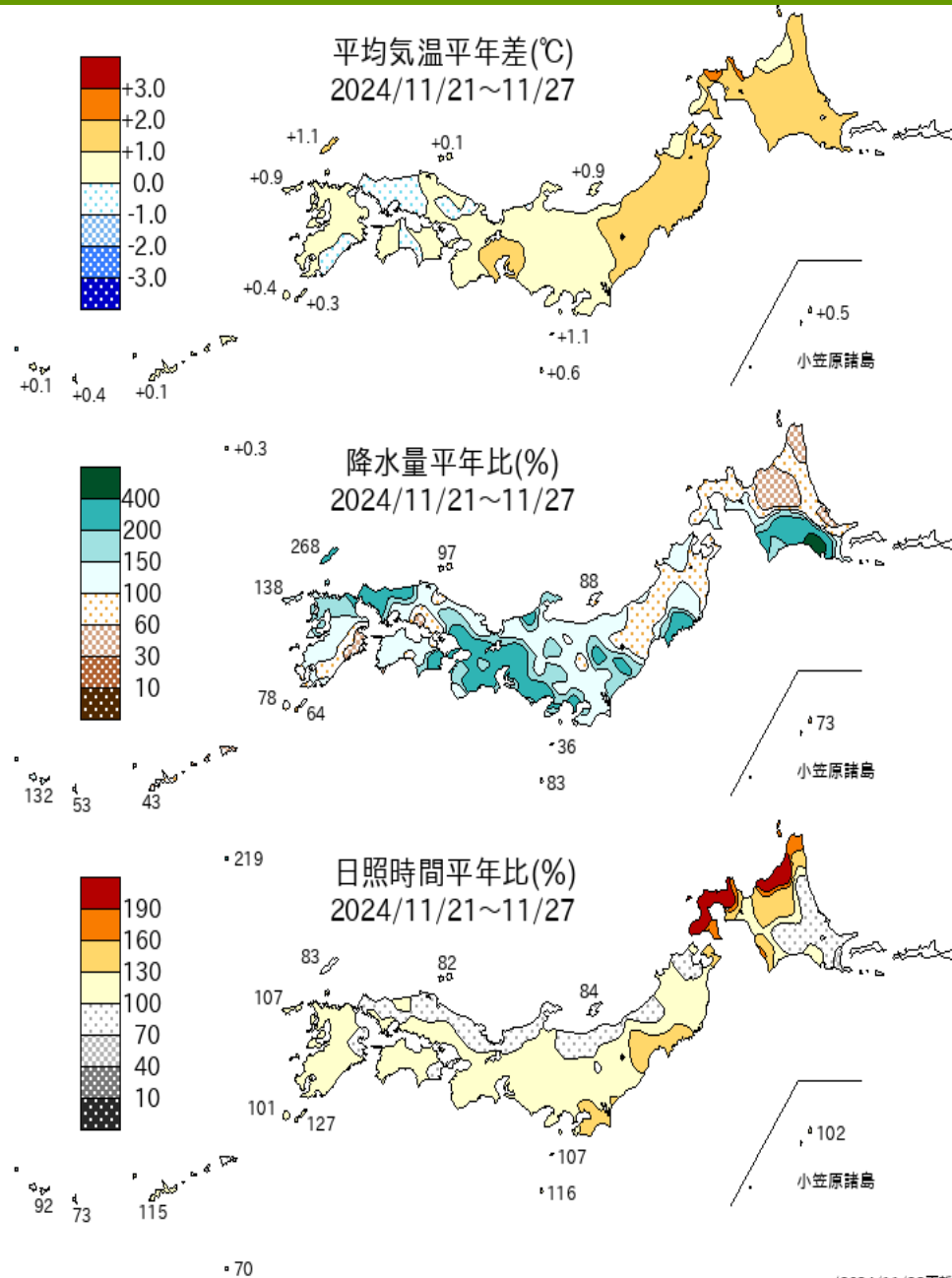
・北日本日本海側では、低気圧や寒気の影響をやや受けやすいため、やや多雨・やや寡照。

・東・西日本日本海側では、寒気の影響を受けやすい時期もあり、やや多雨・やや寡照。

・北・東・西日本太平洋側では、低気圧の影響をやや受けにくいいため、やや少雨・やや多照。

・沖縄・奄美では、寒気の影響を受けやすい時期もあり、並雨やや寡照

# 最近1週間の天候経過



最近1週間(11月21日~11月27日)は、日本付近は天気が周期的に変わりましたが、北・東日本を中心に高気圧に覆われやすく、晴れた所が多くなりました。一方、低気圧の影響を受けやすかった北日本太平洋側や西高東低の冬型の気圧配置となりやすかった東・西日本日本海側では、曇りや雨の日が多くなりました。

26日から27日にかけては本州南岸から三陸沖を進む低気圧の影響を受けて、北・東・西日本で降水量が多くなりました。

気温は、日本付近は西高東低の気圧配置になりやすかったこともあり、西日本を中心に低くなった所もありました。一方、北日本では暖かい空気が流れ込んだため、高くなりました。